

式 辞

例年になく雪の少なかった冬の季節が終わろうとし、穏やかな陽射しのなか、太子が丘の木々も一気に芽吹きを始め、吹く風にも確かな春の息吹が感じられる頃となった今日のよき日、平成30年度鳥取県立倉吉農業高等学校の卒業式を挙げるに当たり、鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志 様、本校同窓会 進修会会長 吉田 秀光 様、本校PTA会長 高濱 國彦 様、をはじめ多数のご来賓のみなさま、保護者のみなさまのご臨席を賜って、厳粛のうちにも心温まる卒業式を執り行うことができますことは、教職員一同の大きな喜びであります。高い所からではありますが、ご臨席いただきました皆様に心からお礼を申し上げます。

ただいま卒業証書を授与しました75名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。教職員一同、みなさんの卒業を心より祝福いたします。

またご列席の保護者のみなさまには、お子様が立派に成長し、本校を卒業されますことを心よりお喜び申し上げます。保護者のみなさまには、一人一人の卒業生が、勉強、部活動そして農業実習、あるいは寮生活など、物事に果敢に挑戦するなかで不安を感じたり悩んだりした時に、自らの力を信じ自らの力で解決していくための適切な助言をいただいたこと、そして深い慈愛を持って多大なご支援をいただいたことを、教職員一同心より感謝しております。本当にありがとうございます。

さて、この三年間、みなさんは百三十有余年の輝ける伝統のある倉吉農業高校の大地で高校生活を過ごしました。

木々の息吹を感じる春に始まり、暑さみなぎる夏に汗し、木々の葉の散る秋に愁い、寒風吹きあれむ冬の厳しさに耐え、知識と技術、強健な身体、そして命を慈しむ心を育んできました。

そして寮生活を経験した人は同じ年代の友人とともに同じ釜の飯を食らい、語らい、昼も夜も仲間と生活したことで、通学生の2倍も、多くのことを学び、経験しました。

まさに人として「大きく成長を遂げた3年間」を過ごしてきたのです。このようなことは他の高校で経験することはできません。多くのことを経験し、その経験がみなさんを大きく育てているはずです。

さて、みなさんはこの農場や寮で、さらにこの地域を舞台に、この一年だけでも立派な成果を成し遂げました。

農業クラブ活動では、意見発表会、家畜審査競技会、測量競技会、プロジェクト発表会など県大会の最優秀賞を独占し、さらに農業高校対抗料理コンクールではグランプリを獲得しました。

食品科のうまい米づくり隊は、今年も全国各地で開催された米のコンテストで数多く

の金賞を獲得し、さらに全国農業高校お米甲子園におけるプレゼンテーション部門では、日本一であるグランプリを獲得しました。静岡県で開催されたコンテストでは、史上初めて高校生が最終審査に残るという快挙を成し遂げています。それぞれの大会で最終審査に残ることだけでも全国の農業高校が苦勞している中、金賞をこんなに連続して獲得した高等学校は全国にありません。

さらに、数年来取り組んできた鳥取県版HACCPでは、全国の農業高校で初めて食品の認証を受けました。

またイノシシカレーのレトルト食品を世に出し、数多くの新聞紙上を賑わすなど、輝かしい活動をしています。

本日おいでいただいている山本 仁志 県教育長様のところには、今年度だけで2回も訪問し、たくさんの励ましの言葉やねぎらいの言葉をいただいています。生徒たちには大きな励みになったと感謝しております。

環境科では先ほど見ていただいたとおり、倉吉駅周辺の美化活動に取り組み、倉吉市の顔である倉吉駅は、常に花に囲まれ、おいでいただいたみなさんのおもてなしをしています。倉吉駅の壁には、みなさんの活動を紹介したポスターであふれています。

さらに、全国規模の様々なコンテストにも果敢に挑戦し、全国産業教育フェアで入賞したり、県知事賞を獲得したりなど、大活躍をしてくれました。

生物科では今年はスーパー農林水産業士の資格を3人が獲得し、先日、山本県教育長立ち会いのもと、平井伸治 鳥取県知事から直接認定証を受けることができました。鳥取県農業の担い手としての活躍を期待しています。

さらに、日頃の農場当番活動では、生徒は寮に宿泊して、中には朝5時から作業を開始し、分娩などがあった際には、たとえ夜中であろうが、畜舎に出かけて作業します。他の部門でも、土日も寮に泊まって農場当番をこなします。こんなにがんばる高校生が他にいるのでしょうか。

この場では語りきれないほどの多くの活動がありましたが、今年も数多く報道で取り上げられました。ときには毎日のように新聞で報道されたこともありました。日頃の学習活動の何げないことでも、みなさんの活動は、実はとても素晴らしいことだからこそ評価され取り上げられています。このような価値のある高校生活を送ったことに大きな自信を持ち、この先の人生の力にして欲しいものだと思います。

私は校長就任以来、倉吉農業高校を日本一の農業高校にしたいという大きな願いを持っていました。最初のころはそのゴールは遙か彼方であり、まるで見通すことができませんでした。

しかし今は違います。今年は日本一だとか、日本初だとか、さらに史上初などの言葉が倉吉農業高校の前についていました。今では胸を張って日本一の農業高校だと言えるようになっていきます。

そして、もう一つ。私は倉吉農業高校が地域に愛される学校、この地に倉吉農業高校

があってよかったと、地域の人に思っただけの学校でありたいと願ってきました。また、素晴らしい本校生徒たちを、地域の人に見て欲しいとの思いもありました。

生徒のみなさんの地域に出かけての様々な活動や、地域の人を招いての「のうこう市場」や開放講座では、みごとにその願いを実現してくれました。今では地域の人から高い評価をしていただいています。

私はいろいろなところで話しをする機会が多いのですが、そのたびに私の自慢は生徒たちですと話しています。みなさんは私の自慢の生徒です。

さて、「平成」の時代が、あと2ヶ月で終わろうとしています。1ヶ月後には新しい元号が発表され、新しい時代へと日本が大きく変わろうとしています。このたびの卒業式も平成最後の卒業式であり、みなさんは平成最後の本校卒業生となります。

私事ではありますが、今日は私にとっても最後の卒業式でもあります。その思い出深い卒業式にあたって、みなさんに最後のメッセージを送りたいと思います。

それは、人生二度なしということです。

この先のみなさんの人生は山あり谷ありです。この先に楽しいことやうれしいことがあるでしょうし、きつとつらいことや悲しいことにも出会うでしょう。分かれ道にも出会い、どちらの道を進めばいいのか迷うこともあると思います。

でも、自分の人生は一つだけしかありません。そしてその人生も一度だけです。そんな人生だからこそ、どんなときでも常にベストを尽くしてください。ベストを尽くせば必ずチャンスは巡ってきます。一所懸命にやるからこそ、応援してくれる人が現れます。それが人生です。

「時間の使い方」は、そのまま「命の使い方」です。そして、時は過ぎ去るものではなく、心のうちに、からだのうちに積もりゆくものです。

人生をとおして精一杯のベストを尽くし、置かれたところで、「世界に一つだけの、そしてあなただけの花」を咲かせて欲しいと思います。

そして、そのために土台となるのが健康です。本校のシンボルでもある「まず健康」を常に心がけ、さらに寮の綱領でもある「誠実と敬愛」、「強健な身体と不屈の意志」を持って、輝く未来へとばたいてください。

最後にもう一つ言っておきたいことがあります。それは、感謝の心を忘れないで欲しいということです。可能性が花開くのは、もちろん、自分自身のたゆまぬ努力があってこそありますが、それだけではありません。花は一人で開くのではなく、太陽の光や雨、春風などの恵みを受けて開くのです。皆さんも、これまで、自分なりに頑張って、力を発揮して、うまく出来たと思っていることがあるでしょうが、そこには、先生方のご指導や友達からの励まし、家族の応援や心配りなど、目に見えないたくさんの支えがあったはずです。この先も陰で支えてくれたり、見守っていてくれたりする人もきっといると思います。そういう人たちが周りにいることを決して忘れてはいけません。謙虚

な気持で、周りの人たちへの感謝を忘れてはいけません。

人生で大事な心構えは感謝と謙虚です。

終わりにりましたが、本校教育に理解いただき、倉吉農業高校に大切なお子さんを送り出していただいた保護者のみなさまに心から感謝申し上げ、ご多忙のなか、本校卒業式においでいただきましたご来賓の方々に、これからも本校教育にご支援とご協力をお願いして、卒業式にあたっての校長の式辞とさせていただきます。

平成31年3月1日

鳥取県立倉吉農業高等学校

校長 田 中 正 士